

更番止るの稱よりして節限ハ別文字の公
マヤ、凍ミ意味もあり、
へミ、
同記の注を見る

神明天皇御宇己未七月小祢下坂金部石
布連大山下津守吉祥連を使者と
吳唐より来る逆風より遭ひて雨を經漸
十月下旬東京より至る天子問曰此等蝦夷
国有何方使人謹答国有東北天子問曰
蝦夷幾種使人謹答類有三種遠者名都
加留次者鹿蝦夷近者熟蝦夷今此熟蝦

夷毎歲入貢本国之朝天子問曰其国有
五穀使人謹答無之食肉存活天子問曰
国有屋舎使人謹答無之深山之中止住
樹本下畧見ハ伊吉連情徳異に傳へありといふ人少多
なハ情徳書といふとを因入籠後方羊蹄ホ
の名あり又ハ引合を考へハ熟蝦夷とい
物を熟トて喰ふの名トて當はるト
の事トヤ古王化ハ陸より先ハ耕業ト志
らハ熟番トなく完ハ任樹トを家ト一
熟を教一毛を煮血を飲一あり一今